

表 11.13.1.6 (21) 予測結果 (21 浮島社)

予測項目		予測結果	
道路の存在	触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変の程度	浮島社は計画路線と交差しないため、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変はありません。よって、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源は保全されると予測されます。	
	利用性の変化	利用性の変化	散策、自然観察の主な利用は、砥川の水辺や中州（浮島）の施設を中心としたものであり、計画路線による砥川の水辺や中州（浮島）の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
		到達時間・距離の変化	計画路線により改変される既存道路に対しては近傍に付け替え道路を整備するため、アクセスルートは分断されません。また、計画路線の利用による触れ合いの活動の場への到達時間の短縮が見込まれます。よって、到達時間・距離の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	快適性の変化	触れ合いの活動の場から、計画路線は視認されません。よって、快適性の変化による影響は生じないと予測されます。	
工事の実施	散策、自然観察の主な利用は、砥川の水辺や中州（浮島）の施設を中心としたものであり、工事の実施による砥川の水辺や中州（浮島）の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。また、工事の実施により、一時的な通行規制が生じる場合は必要に応じて迂回路の確保等を行うため、触れ合いの活動の場及びアクセスルートの分断は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。		



表 11.13.1.6 (22) 予測結果 (22 先宮神社)

予測項目		予測結果
道路の存在	触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変の程度	先宮神社は計画路線と交差しないため、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変はありません。よって、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源は保全されると予測されます。
	利用性の変化	散策、自然観察の主な利用は、先宮神社敷地内の施設を中心としたものであり、計画路線による神社内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	到達時間・距離の変化	計画路線により改変される既存道路に対しては近傍に付け替え道路を整備するため、アクセスルートは分断されません。また、計画路線の利用による触れ合いの活動の場への到達時間の短縮が見込まれます。よって、到達時間・距離の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	快適性の変化	触れ合いの活動の場から、計画路線は視認されません。よって、快適性の変化による影響は生じないと予測されます。
工事の実施		散策、自然観察の主な利用は、先宮神社内の施設を中心としたものであり、工事の実施による神社内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。また、工事の実施により、一時的な通行規制が生じる場合は必要に応じて迂回路の確保等を行うため、触れ合いの活動の場及びアクセスルートの分断は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。

表 11.13.1.6 (23) 予測結果 (23 佛法紹隆寺)

予測項目		予測結果
道路の存在	触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変の程度	佛法紹隆寺は計画路線と交差しなため、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変はありません。よって、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源は保全されると予測されます。
	利用性の変化	散策、自然観察の主な利用は、佛法紹隆寺敷地内の参道や庭園等の施設を中心としたものであり、計画路線による佛法紹隆寺内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	到達時間・距離の変化	計画路線により改変される既存道路に対しては近傍に付け替え道路を整備するため、アクセスルートは分断されません。また、計画路線の利用による触れ合いの活動の場への到達時間の短縮が見込まれます。よって、到達時間・距離の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	快適性の変化	触れ合いの活動の場から、計画路線は視認されません。よって、快適性の変化による影響は生じないと予測されます。
工事の実施		散策、自然観察の主な利用は、佛法紹隆寺内の参道や庭園等の施設を中心としたものであり、工事の実施による佛法紹隆寺内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。また、工事の実施により、一時的な通行規制が生じる場合は必要に応じてう回路の確保等を行うため、触れ合いの活動の場及びアクセスルートの分断は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。

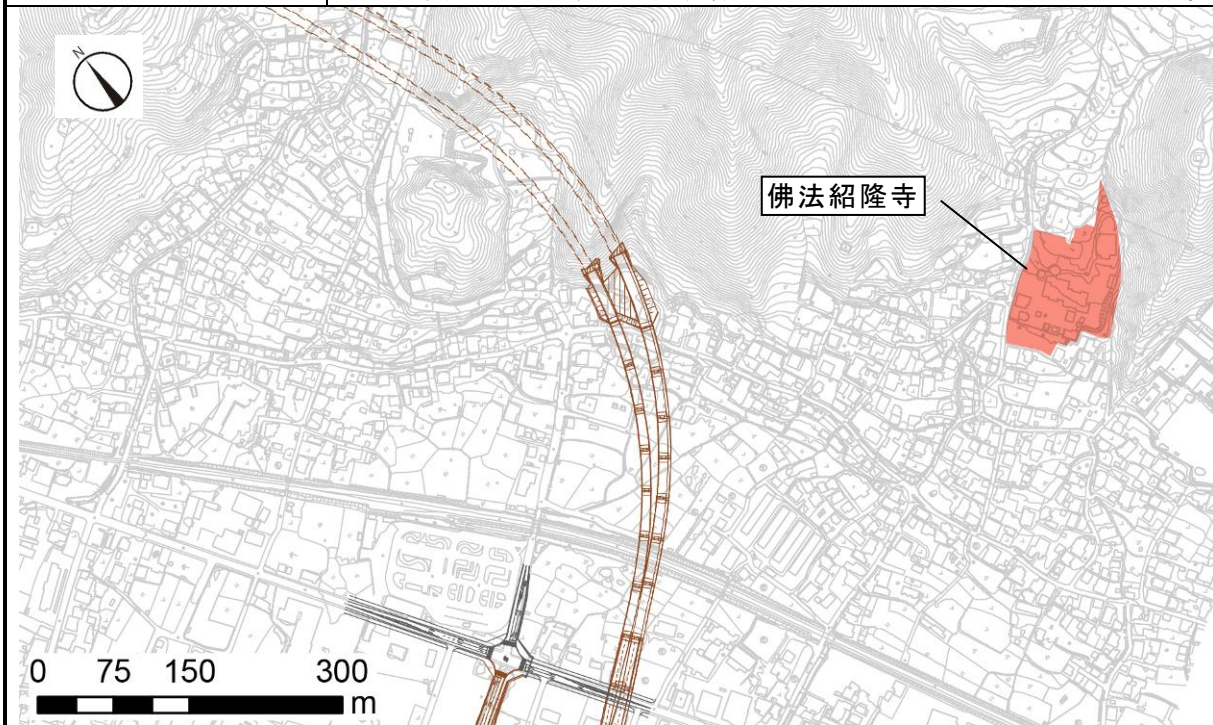


表 11.13.1.6 (24) 予測結果 (24 諏訪大社下社春宮)

予測項目		予測結果
道路の存在	触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変の程度	諏訪大社下社春宮は計画路線と交差しないため、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変はありません。よって、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源は保全されると予測されます。
	利用性の変化	散策、自然観察の主な利用は、諏訪大社下社春宮敷地内の施設を中心としたものであり、計画路線による神社内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
		到達時間・距離の変化
	快適性の変化	触れ合いの活動の場から、計画路線は視認されません。よって、快適性の変化による影響は生じないと予測されます。
工事の実施	散策、自然観察の主な利用は、神社内の施設を中心としたものであり、工事の実施による神社内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。また、工事の実施により、一時的な通行規制が生じる場合は必要に応じて迂回路の確保等を行うため、触れ合いの活動の場及びアクセスルートの分断は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。	

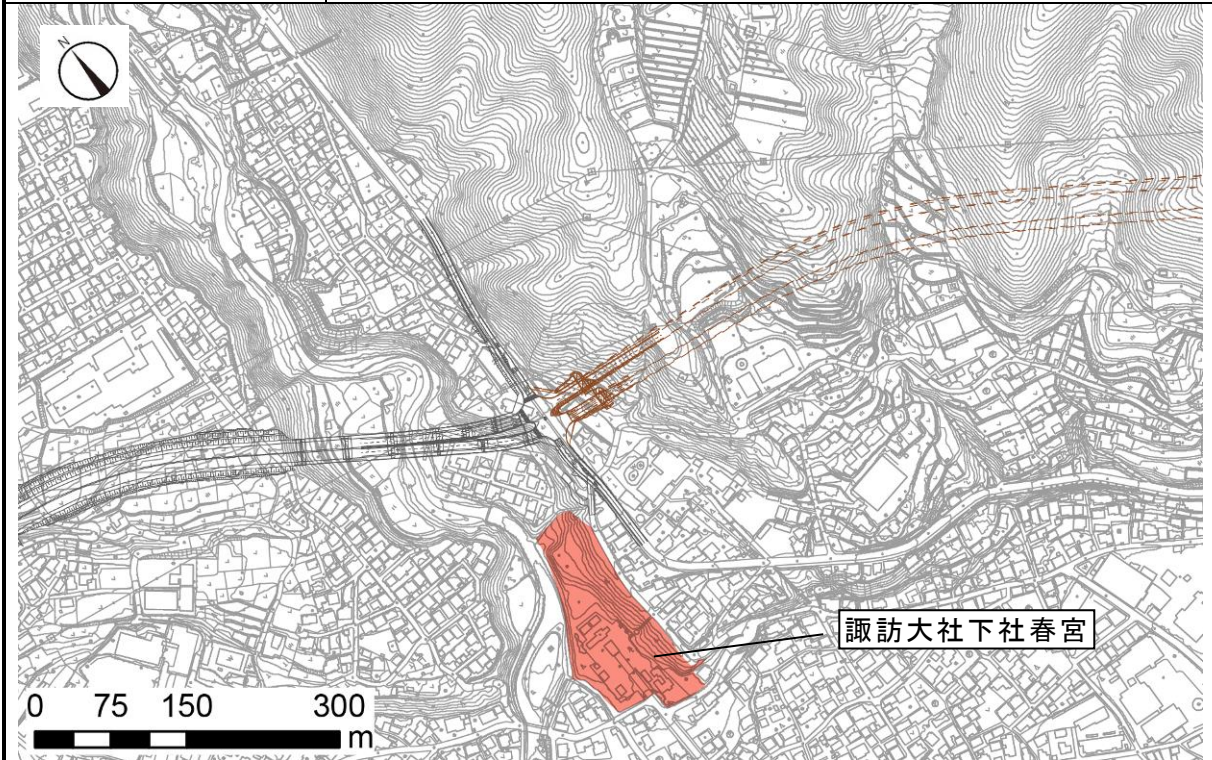
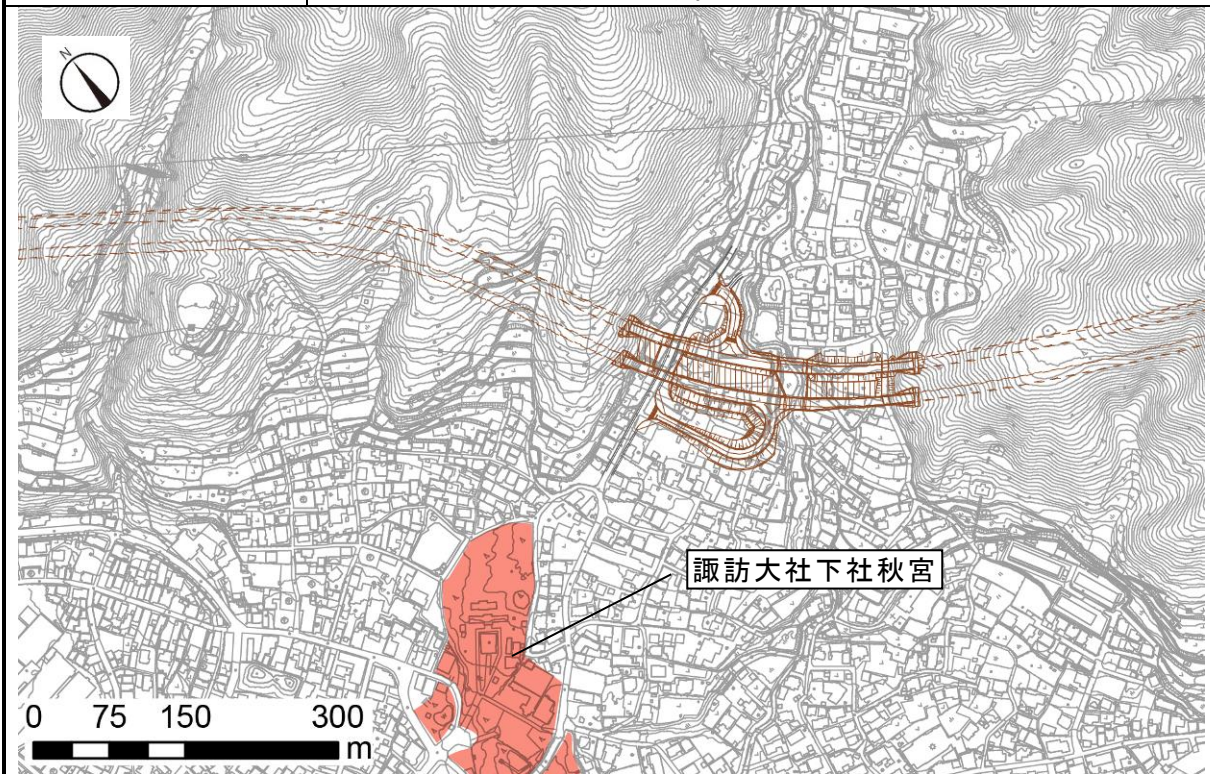


表 11.13.1.6 (25) 予測結果 (25 諏訪大社下社秋宮)

予測項目		予測結果
道路の存在	触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変の程度	諏訪大社下社秋宮は計画路線と交差しないため、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変はありません。よって、触れ合いの活動の場及びそれを取り巻く自然資源は保全されると予測されます。
	利用性の変化	散策、自然観察の主な利用は、諏訪大社下社秋宮敷地内の施設を中心としたものであり、計画路線による神社内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	到達時間・距離の変化	計画路線により改変される既存道路に対しては近傍に付け替え道路を整備するため、アクセスルートは分断されません。また、計画路線の利用による触れ合いの活動の場への到達時間の短縮が見込まれます。よって、到達時間・距離の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。
	快適性の変化	触れ合いの活動の場から、計画路線は視認されません。よって、快適性の変化による影響は生じないと予測されます。
工事の実施	散策、自然観察の主な利用は、神社内の施設を中心としたものであり、工事の実施による神社内の改変はないため、散策、自然観察の利用に支障は生じません。また、工事の実施により、一時的な通行規制が生じる場合は必要に応じて迂回路の確保等を行うため、触れ合いの活動の場及びアクセスルートの分断は生じません。よって、利用性の変化による影響が生じる可能性は低いと予測されます。	



3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討

予測結果より、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置に係る人と自然との触れ合いの活動の場への影響について、事業者の実行可能な範囲内で環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として、3案の環境保全措置を検討しました。

検討の結果、「構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討」、「地形改変部（法面含む）の緑化」及び「御柱祭の開催影響への配慮」を採用します。

検討した環境保全措置は、表 11.13.1.7 に示すとおりです。

表 11.13.1.7 環境保全措置の検討結果

環境保全措置	実施の適否	適否の理由
構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討	適	構造物（橋梁等）及び道路付属物のデザイン、色彩に配慮することにより周辺景観に調和させることで、人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用します。
地形改変部（法面含む）の緑化	適	地形改変部（法面含む）の緑化を行うことにより周辺景観に調和させることで、人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用します。
御柱祭の開催影響への配慮	適	御柱祭及び小宮御柱祭の開催期間中は、工事用車両の走行位置・台数の制限等の施工計画を検討し、また供用後は山出し・里曳きルートとの交差箇所の通行規制等について、必要に応じて関係機関と協議・調整を行い、祭りを安全に支障なく開催できるようにすることで、人と自然との触れ合いの活動の場への影響を回避・低減できることから、本環境保全措置を採用します。

(2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(3) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討」、「地形改変部（法面含む）の緑化」、「御柱祭の開催影響への配慮」の効果、実施位置、他の環境への影響について整理した結果は、表 11.13.1.8 に示すとおりです。なお、環境保全措置の実施にあたっては、専門家等の意見を聴取しながら適切に行うものとします。

表 11.13.1.8(1) 検討結果の整理

実施主体	国土交通省関東地方整備局	
実施内容	種類	構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討
	位置	計画路線全域
環境保全措置の効果	構造物（橋梁等）及び道路付属物のデザイン、色彩に配慮することにより、周辺景観との調和が見込まれる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	景観への影響が低減される。	

注：環境保全措置の具体化の検討時期は、詳細設計の段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定する。

表 11.13.1.8(2) 検討結果の整理

実施主体	国土交通省関東地方整備局	
実施内容	種類	地形改変部（法面含む）の緑化
	位置	地形を改変する箇所
環境保全措置の効果	地形改変部（法面含む）の緑化を行うことにより、周辺景観との調和が見込まれる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	景観への影響が低減される。	

注：環境保全措置の具体化の検討時期は、詳細設計の段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定する。

表 11.13.1.8(4) 検討結果の整理

実施主体	国土交通省関東地方整備局	
実施内容	種類	御柱祭の開催影響への配慮
	位置	御柱祭及び小宮御柱祭の開催箇所周辺（山出し・里曳きのルートを含む）
環境保全措置の効果	御柱祭及び小宮御柱祭の開催期間中は、工事用車両の走行位置・台数の制限等の施工計画を検討し、また供用後は山出し・里曳きルートとの交差箇所の通行規制等について、必要に応じて関係機関と協議・調整を行い、祭りを安全に支障なく開催できるようにする効果が見込まれる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	特になし	

注：環境保全措置の具体化の検討時期は、詳細設計の段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定する。

4) 事後調査

予測の手法は、図上解析による改変の位置、程度の把握等の多くの実績を有する手法であり、予測の不確実性は小さいと考えられます。

また、採用した環境保全措置についても効果に係る知見が十分に把握されているものと判断でき、効果の不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は行わないものとします。

5) 評価結果

(1) 回避又は低減に係る評価

計画路線は道路の計画段階において、主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び主要な人と自然との触れ合いの活動の場を取り巻く自然資源をできる限り回避した計画としているとともに、工事施工ヤードは計画路線上を、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画としており、環境負荷の回避・低減を図っています。

また、環境保全措置として「構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討」、「地形改変部（法面含む）の緑化」及び「御柱祭の開催影響への配慮」を行い、環境負荷を低減します。

このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。